

社会福祉法人熊本県視覚障がい者福祉協会 令和2年度 熊本県点字図書館事業報告書

全国視覚障害者情報提供施設協会に加盟する当館は、サピエ図書館でのオンラインリクエストサービスや、2019年1月1日にわが国でもマラケシュ条約発効や、障害者読書環境整備推進法【読書バリアフリー法】が施行される中、複雑多様化する情報社会のなかで、熊本県内に在住する視覚障がい者（利用者）に対して、読書環境及び、情報、生活、文化の提供施設として蔵書を増やし提供することに努め、県振興局や各福祉事務所・社会福祉協議会等へ啓発活動として熊本県点字図書館創立50周年記念誌を配布し、相談業務等の充実を行った。

そして、高齢者の視覚障がい者や中途失明者の利用者ニーズに対応するため、一層のサービス向上に努め、さらに九州7月豪雨では安否確認を行い少し遅れたがコロナ禍での支援が難しい中、人吉・球磨地方には物資支援を行った。

図書の貸出しでは、職員のスキルアップ、点訳・音訳指導者の育成の各所研修会はコロナ禍により中止となるなどで参加できなかったが、サピエを活用しより一層の貸出しサービスに努めた。

また、利用者への情報支援機器の取り扱いのサービスの向上もコロナ禍により来館制限をし、なるべく電話での対応に努め、各関係方面との連携、協調を図り実施した。

1. 蔵書の製作と充実に努めた。（別紙資料1, 2, 3参照）

(1) 点字図書 今年度 198タイトル 666冊

（昨年度 226タイトル727冊）が増加した。

内訳 厚生労働省委託図書、39タイトル（昨年度 57）

自館点訳図書 159タイトル（昨年度 169）

寄贈図書 0タイトル（昨年度 0）

累計蔵書数は、10,030（昨年度 9,832）タイトル
32,930（昨年度32,264）冊である。

(2) 録音図書（カセットテープ）

累計蔵書数は、8,684タイトル、
48,884巻である。

(3) デイジー図書（CD）の製作では、384タイトルが蔵書された。 （昨年度 365タイトル）

内訳 厚生労働省 40タイトル（昨年度 32）

自館音訳図書 334タイトル（昨年度323）

寄贈図書 10タイトル（昨年度 10）

（マンガデージー9タイトル、シネマデージー5タイトル含む）

累計蔵書数は、9,303タイトル（昨年度8,919）である。

点訳・録音増加図書の殆どが、点訳・音訳ボランティアの協力によって製作、校正、編集されている。

今年度サピエ図書館に登録した点字図書データは、163タイトル
録音図書は、273タイトル（シネマデージー4、テキストデージー37）であった。

（4）点字雑誌については、季刊1種（らしんばん）。

月刊情報雑誌 3種（点字ジャーナル・ライフ&ライフ・信仰）。

週刊雑誌1種（点字毎日）で読者のニーズに対応した。

（5）録音雑誌については、月刊情報雑誌他、週刊雑誌、年間数回発行されるものを含めて9種の音声情報資料の収集を図り、利用者の要望に対応した。主なものを挙げると、（やまゆり・ダンスファン・暮らしの手帖・週刊現代・医道の日本・九視情協、熊点最新新刊図書案内・ラジオ深夜便）などで利用者のニーズに対応した。

デージー雑誌では、CD26種の貸出しがなされた。（にってんデージーマガジン・医道の日本・選択・フォーサイト・文芸春秋・毎日ライフ・NHKきょうの健康・爽快・週刊現代・趣味の園芸・俳壇・カエル・新潮・世界等）。

2、貸出業務の拡大と充実を図った。（別紙資料4、5、6、7参照）

（1）点字図書の年間延べ貸し出し数は、60,244冊

（昨年度74,117冊）

録音図書（カセットテープ）の年間延べ貸し出し数は、4,410巻

（昨年度4,861巻）

CD図書の延べ貸し出し数は、42,870枚

（昨年度42,021枚）

（2）実利用者数は点字図書126名。録音図書テープ図書8名。

デージー図書472名であった。

（3）熊本県立盲学校に、点字児童図書を長期に貸出し、児童生徒の利用の拡大を図っている。44タイトル、59冊。

（4）全国相互貸借による貸出しを行なった。

具体的には、「サピエ図書館」の活用により検索、貸出しを実施した。

① 利用者自身が、より早く情報収集できるようこのシステムを活用、

参加することを啓発し、QOLが高まるように努めた。今年度5名が加入（累計198名が加入）

- ② 図書館と利用者とを結ぶ、メーリングリストを有効に活用し、情報の収集と発信を可能とする事で、社会参加の一助となるよう努めた。
- ③ パソコンボランティア熊本の協力を得て、ICT 利用者の増員へ努めた。新規申込者13名であった。
- (5) 利用拡大活動を推進し、情報機器説明会を各視覚障害者団体と連携を図り開催し、情報収集に貢献した。荒尾市、人吉・球磨で実施。
- (6) 新規の利用登録者を増やすため、各関係機関との連携を強化し、利用者の拡大を図った。新規登録者数45名であった。
- (7) 郷土色豊かな点訳図書、録音図書を製作して、地方図書館としての特色を生かすよう努めた。点字図書1タイトル、録音図書は2タイトルであった。
- (8) 煩雑する図書貸出を迅速に行うために、年間3回の図書整理を行った。

3. 閲覧状況（別紙資料6参照）

閲覧については、閲覧室が整備されて以来、利用者にとって、学習（読書、訓練など）、研修、憩いの場所として有意義に活用された。諸行事等の開催により閲覧者の増加を図っている。今年度は対面読書の利用が延87名であった。

1年間の延べ閲覧者は次のとおりである。

点字図書	167人（昨年度 492人）
	534冊（昨年度1,574冊）
録音図書	239人（昨年度545人）
	430枚（昨年度981枚）

閲覧室のパソコンにて電子書籍やブレイルメモを利用しての閲覧を介し、サピエ図書館利用へと繋がっている他、パソコン操作やソフトまた、スマートフォンの個人対応は約15名。電話でのレファレンスサービスは月約60件、年間約600件の対応を行った。

4. 活発な広報活動を行い利用の拡大を図った

- (1) 「熊点だより」を、熊本県広報誌に寄稿し、新刊図書紹介や、団体情報等を掲載し、周知に努めた年5回。

- (2) 図書目録（点字版・墨字版・音声版）を製作し、利用者45名に配布した。また、毎月1回「九視情協最新録音図書案内」の録音版を60件発送した。
- (3) ホームページにて新刊図書案内等を紹介して情報の提供に努めた。
- (4) 県内の、各視覚障がい者団体等との連絡、協調を図り、各種会合や諸行事等へ出席して、広報に努める他、利用者の要望を聞き利用の拡大を図った。（八代市）
- (5) 社会へ対して、点字図書館活動への理解と協力を深める為に、関係諸機関、団体等が発行する情報誌、機関誌等に、点字図書館の紹介記事の掲載を依頼し、県内巾広く広報に努め、新規利用者の拡大を図る。又、点字教室とデイジー規格の推進会などを開催し、広報活動に努めた（NHKテレメッセ）
- (6) ある企業の協力により、熊本市通町とサンロード新市街のテレビジョンにて啓発活動ビデオとして、視覚障がい者の啓発及び点字図書館・生活訓練のPRに務めた。
- (7) 登録利用者の調査、整理を行い業務の効率化を図った。（「創立50周年式典中止」の案内状にて調査）

5. ボランティアの育成と活動の促進を図った

- (1) 現在活動中のボランティアを対象に、点字図書館主催で、点字、朗読（音訳）研修会を、年5回開催し、正確な図書製作のための技術と資質の向上を図った。
- (2) ボランティア団体（グループ）の育成および助成を図った。
「熊本県点訳音訳友の会」他、県内各地域のボランティア団体等の諸行事に参加し、日頃の活動に感謝するとともに育成と活動の促進を図った。（天草市・山鹿市・人吉市）
- (3) 音訳研修会において各デイジーを製作する上で協力できるボランティアの研修会を行った。シネマデイジー7名により制作数は5タイトル。漫画デイジー8名、研修回数4回を開催し制作数は、9タイトルを製作した。テキストデイジー5名、研修回数1回を行った。制作数は31タイトルであった。テキストデイジーは、製作実践、点字変換と点訳にも活用できるよう努めた。

また、点訳図書・録音図書校正員を、62名委嘱して、年1回の研修会を開催し、校正技術の向上を図るとともに、正確な図書製作に協力を得ている。点字校正員33名。触読校正者4名。録音校正員25名である。

- (4) 全視情協が管理する「サピエ図書館」の、図書製作支援（管理、共同制作、読み方調べ情報データベースシステム）を利用する。コロナ禍により逐次刊行物（録音雑誌類）の発送が遅れることの周知をした。
- (5) 意欲あるボランティアに対し、シネマデイジー・テキストデイジー・マンガデイジーへの取組として研修会を開催し、奉仕員の中から養成した。
- (6) 各市町村や、社会福祉協議会からの広報誌他、点字印刷やデイジー製作・取組等の相談を受ける中、指導員を派遣し、各地域での視覚障がい者意思疎通支援者として養成に協力した。山鹿市・合志市。

6. 点字印刷業務

- (1) 熊本県広報誌「県からのたより」を年5回、「熊本市政だより」を年12回、「八代市広報」を年12回、「わたしたちの福祉」を年2回、などの点字印刷業務を受託し、製版、印刷、発送を行った。熊本県議会だより（いちよう）年4回製作発送した。「熊点だより」年5回制作発送した。
- (2) 公共団体、民間団体、個人等の依頼により、点字印刷その他視覚障害者に必要と思われる資料の製作、印刷、発送に努めた。
特に行政情報としては、「公務員受験広報」、各種選挙広報等の製作を受託し、製作、印刷、発送に努めた。
- (3) 図書目録、各種機関誌他、関係資料の製作、印刷、発送に努めた。

7. 録音製作業務

- (1) 録音図書の自館製作については、音訳ボランティアの協力を得て利用者の希望図書を優先して製作した。
- (2) 熊本県広報誌録音版、「県からのたより」を年5回、熊本市広報「声の市政だより」を年12回、「宇土市広報」を年12回、「熊点だより、録音版」を年5回、製作、複写、発送している。熊本県議会だより年4回発送した。
- (3) 地域福祉が叫ばれる中、地域で活動しているボランティアグループの協力を得て、広報製作や利用者のデジタル化への推進を広め、視覚障がい者の現状を踏まえ、各種学校・社協での取り組みに、視覚障がい者の協力者及び点訳・音訳奉仕員の派遣を行った。益城町・菊地市・荒尾市・玉名市・山鹿市・合志市・八代市・人吉市。
- (4) 公共団体、民間団体、個人等の依頼による音声情報製作を受託し、又、視覚障害者に必要と思われる資料の製作、複写に努めた。

音声版への対応は、利用者の要望も多く確実な実績があがった。
(5) その他、月刊、週刊テープ雑誌等の製作、複写、発送に努めた。

8, 関係資料の収集、調査

全国図書目録、他館の図書館だより、「日本の点字図書館」等の資料を収集、調査、研究し図書館サービスの充実に努めた。

又、寄贈された点字書や録音版など利用者に紹介し、貸出を行った。

(1) 視覚障害者に必要と思われる、点字、録音資料を購入、又は貸借により利用者の要望に対応した。特に、郷土色豊かな資料等の対応に努めた。

(2) 利用者からの要望の多い、スマートフォンの使用法を調査研究し操作が困難な方への対応に務めた。

9, 盲人用具の斡旋

(1) 白杖、点字器具一式（点字板、点字用紙、ルーズリーフなど）、音声時計、音声体重計、拡大読書機、ポータブルレコーダー、ブレイルメモ他、盲人用日常生活用具をあっ旋し、利用者の要望に対応し、常に新製品情報を提供した。

(2) 全国基準で定める補装具での利用者にあった用具を推進し、日常生活用具では、各市町村での地域生活支援事業の地域格差を無くすよう努めた。（熊本市・八代市、暗所視支援眼鏡4月より日常生活用具へ）

10, 職員研修会の開催、及び参加

(1) 必要に応じて随時、施設内職員研修会を開催し、職員間の連携を図るとともに、視覚障害者への更生援護の専門技術の向上と、盲人用具や情報機器業務の円滑、充実に努めた。

(2) 日本盲人社会福祉施設協議会（日盲社協）、全国視覚障害者情報提供施設協会（全視情協）の主催による研修会等への参加

5月 音声版選挙公報製作に係る研修会（東京）オンラインにて宮本参加

6月 日盲社協大会（彦根市）→ 中止

10月 全視情協大会（高知市）→ 来年度へ延期

(3) 九州視覚障害者情報提供施設協議会（九視情協）主催による職員研修会

4月 館長会議（理事会）福岡県→ 中止

9月 第34回九視情協大会, 館長会議 (理事会)、職員研修会及び
眼病啓発活動 (福岡県) →中止

1月 九視情協職員研修会 鹿児島 来年度7月に延期

1 1, 関係諸団体との連絡協調

日盲社協、全視情協、九視情協等、関係諸団体との連絡協調をオンラインより、
情報交換を行った。

- (1) 盲ろう者に対しては、聴覚障害者情報提供センターと連携を保った。
- (2) 県内の相談支援事業所に、視覚障がい者の生活等の相談に対応した。

1 2, 読み代行、代筆サービス事業の実施

- (1) 利用者からの依頼による、普通文字情報をファクスで受信。
音声化して伝えるサービスを実施し、利用者の要望に対応した。
また、代筆サービスも行なった。
- (2) 地元情報及び、身近な地域生活情報の提供を含め、代読サービスを実施した。

1 3, その他の事業

- (1) ホームページにより、啓発活動及び情報開示に努めた。また、必要に応じて個別に、パソコン講座と情報機器講座を団体・個別と随時開催した。
- (2) 「サピエ図書館」へ参加し、パソコン通信により点字・録音データの収集を図るとともに、ダウンロードにより資料の充実を図った。又、利用者の個人加入の広報に努め今年度合せて新規加入者 11 名であった。現在 194 名が加入し、活用している。
- (3) 「読み代行サービス」、「熊日新聞拾い読み」事業を実施した。ファックスを利用し、電話で読みあげるサービスをし、102 件の依頼があった。
- (4) 音訳グループ『さわらび』の協力を得て、図書館サービスの充実を図り対面読書サービスを実施した。利用者延4名、各2時間、計約8時間。
- (5) 点訳・音訳ボランティアの協力を得て、プライベートサービスを実施し、利用者個人の希望により、点訳・録音図書を製作し要望に対応した。点字図書15タイトル31冊3、209頁。録音図書デージー (CD) 103タイトル695:29分であった。テキスト化への依頼33タイトル。

- (6) 新規登録者の中途失明者及び家族に情報提供と、意見交換会を予定していたがコロナ禍により中止した。
- (7) 令和2年九州7月豪雨の被害状況と安否確認を実施した。葦北・水俣、人吉・球磨・八代・天草・山鹿・玉名特に被害が多かった人吉・球磨地域への支援を行った。スマートサイト「みるくまネット」を活用し、物資依頼の協力を得た。眼科医から多量のマスクを頂いた。視能訓練士、盲学校からも支援があった。
- (8) 新規利用者の拡大を図るとともに、社会への啓発活動及び支援活動として次の事業などに参加した。
- ① ホームページを活用し新刊点字、録音図書の紹介をはじめ、催事情報、ボランティア活動、募集情報等を掲載した。
 - ② 県視協団体が、各支部で開催する歩こう会（天草市）は中止。行事協力ボランティアを派遣する視覚障がい者の行事は以下のとおりである。
 - 6月 熊本市視覚障がい者福祉協会総会 中止
 - 7月 第52回九州盲女性研修会（熊本）中止
 - 8月 火の国杯争奪S T T大会 中止
 - 9月 熊本県視覚障がい者福祉協会・団体 福祉大会 中止
 - ③ 今年度創立50周年に当たり、コロナ禍により式典等は中止。記念誌を発行し啓発を行った。